

「問題解決と課題実現のための知識から知恵を創り出す方法」の本で何ができるか

この本は <http://dten-wisdom.jp/0-mondai-kadai-chishiki-chie.pdf> からダウンロードできます。

まずこの本においての「問題提起」と「問題提起とその回答」は次のようになります。

問題提起

従来、一般の情報社会において、よく似た言葉の間の意味、例えば、問題、課題、知識、知恵などの間の関係もしくは違いを明らかに説明した出版物、論文等は、ほとんど見受けられていませんでした。

その問題提起とそれに対する回答は次のようになっています。そして、知識から知恵を創り出すメカニズムが、無意識にやっていることには違いながら、集団の中で、眼で見える形で、そのメカニズムを利用できる方法はありませんでした。この本はその問題提起に対する回答の本です。それを実現できるようにした方法の本です。

そのトピクスになりそうな項目を「問題と課題の関係」の説明を含め、それぞれが、が何ページに示されているかを示しますと、

問題提起とその回答

- (1) 知識から知恵をつくり出す方法の構成（要点）、P14
- (2) 差の情報による意思決定・判断のメカニズム、P15～31
- (3) 意思決定と判断の関係、P15～16
- (4) 意思決定（判断を含む）の科学の有史以来の歴史の一覧表、P275～277
- (5) 評価と判断の関係、P201
- (6) 知識と知恵の関係（知識と知恵の間には意思がある）、P42 図表 1-4-1、240
- (7) 知恵を創りだせる知識を持った優秀な卒業生を世の中に送り出せたい大学教育の改善、P256 の 3 行目
- (8) 問題と課題の関係および、問題解決と課題実現の関係、P155～163
- (9) 中小企業においても問題を課題に切り替え、問題解決のための「あるべき姿」を把握できる教育ができる、P219～223
- (10) 「何をするために、どのようにして」と「なぜ」質問の使いわけの方法、P32～37
- (11) 過去に必要以上に遡って、どうしようもない責任に入らにようにする方法、P35 の 1.2.5～P37
- (12) 行き詰まりのない企業の目的と利益の関係（DTCN の方針）、P38～39
- (13) 問題と課題の関係と、問題解決と課題実現のための「あるべき姿」の把握とその具体化ができる PMD の方法、P155～165
- (14) もの・システムの構造の最適化の方法、P83～104
- (15) 漏れ落ちのない手順の関係と自然の因果関係とその把握の方法（ステップリストの方法）、P65～79
- (16) いい手と受け手（Offer と Acceptance）の関係とその結果の違い、P30～31
- (17) 目的と手段の関係を縦に書くのと横に書くとの違いとその関係)、P108～110
- (18) 前例のない新しいことを始める方法、P32～37（「何をするために、どのようにして」と「なぜ」質問の使いわけの方法、と同じ）
- (19) 問題解決のためと課題実現のための「あるべき姿」の把握の方法、P164～165
- (20) 知恵による問題解決（problem solving by wisdom）の方法、詳しくは、英文版

<http://dten-wisdom.jp/00001-E-problem-solving-by-wisdom.pdf> を開いて下さい

- (21) 分析をするということは何をしさえすれば分析をしたことになるかの説明、P231～241
- (22) BABOKにおける、エンタープライズ・アナリシスとビジネス・アナリシスの日本的説明、P266～267
- (23) アブダクション、演繹、帰納、社会のための演繹アプローチの関係の手順を適切にし、その関係を組織の中で適切に展開する方法、P51の2.1.5章(4)項とP66の図表2.2-1および-2の内容
- (24) ITベンダーのマネジメントソフトの受注営業のブラックボックスの解消の方法、P219とP222～223
- (25) システム。エンジニアリングとプロジェクト・マネージメントの関係、P166～167
- (26) WBS(Work Breakdown Structure)の再定義とその使い方、Workということばの十分な説明がなされていなかった。それを再定義して、Work Breakdown Structureのあるべき姿を明確にしました。P182
更なる詳細は、<http://dten-wisdom.jp/0-DTCN-WBS.pdf> よりダウンロードできる図書を見てください
- (27) WBSの作り方使い方の混乱からの脱出の方法、同上
- (28) WBSの方法を縦書きにするか横書きにするかの違い、P184～185
- (29) VEの方法の改善、P51の2.1.5章の内容にP61の内容によること
- (30) 現場でのコストダウンの特別チームによる方策、P219、P222～223
- (31) 極端なコストダウンができるようにする環境作り（担当管理者の失墜防止）、P188
- (32) 目標コスト設計（デザイン・ツー・コスト）ができるようにする方法、P196～198、P242～243
- (33) 従来の管理技法、PMD、KJ法、QFDの方法、田口メソッド、VEの方法、IEの方法、QCの方法の
関係とそれぞれをどのように順序で使えば適切かの関係、P218、P221～221
- (34) 英語と日本語の左右脳の内容の対比、P79
- (35) 男女の関係における認識の違いの観察結果、その仮説的構造比較、P119～200～204
- (36) よく似たことばの意味の関係を明らかにする方法、P61～64
- (37) 今まで曖昧であった用語の関係を明らかにする解説、P200～204
(特別註1) この場合、最終的には、用語の上位目的によりその関係は変化することがあります。
(特別註1) 日本語の情報（インフォメーション）と英語のInformationの意味が違います、P201の最後の4行の解説を見てください。
- (38) 日本の商習慣と外国の商習慣の違いとその関係が理解できるようになる、P205～210
- (39) 従来のナレッジ・マネジメントと比べ、知恵を創りだしそれを使うウィズダム・マネジメントができる
ようになる、(次ページの図表を参照) P211～213の解説が参考になります
- (40) 国家行政組織法第一条のよみかえ、もしくは改訂の提案、P216
- (41) KJ法、NM法、VEの方法とのつながり、P300

図表 従来のナレッジ・マネジメントと比べ、知恵を創りだしそれを使うウィズダム・マネジメントができるようになる

